

2025年度 栃木県生協連 沖縄視察研修レポート②

よつ葉生協システム課 鈴木 聡

【視察の目的】

沖縄戦跡視察研修の目的は、沖縄戦で何が起きたのかを正しく理解し、住民も巻き込まれた悲しい地上戦や戦後も続く米軍基地の問題について考えることでした。ひめゆり学徒隊や対馬丸事件など、若者や子どもたちの犠牲を通して戦争の残酷さを感じ取り、平和を守る責任を心に刻むことが大切だと思いました。そして、この学びを家庭や職場、地域で伝え合い、戦争の悲惨さを忘れず社会を少しでも良くしていくために、この学びを行動へとつなげることを目的としました。



【視察1日目】2025年11月6日

1. 【沖縄県平和祈念資料館・平和の礎】（糸満市）

沖縄県平和祈念公園を訪れ、沖縄戦で亡くなった人たちの「二度と戦争を繰り返してはいけない」という思いを強く感じました。園内の中央にある「平和の礎（いしじ）」と、その周りに立ち並ぶ慰霊碑からは、沖縄戦が日本だけの戦いではなく、世界に広がる大きな悲劇だったことが伝わってきました。

「平和の礎」には、国籍や軍人・民間人の区別なく、沖縄戦で亡くなったすべての人の名前が刻まれています。たくさんの石板上に刻まれた名前は、犠牲の大きさを示すと同時に、敵も味方も関係なく追悼するという平和への願いが込められています。

ガイドの横田さんから聞いた話も心に残りました。礎には名前だけが刻まれているが、本来なら年齢も書かれるべきだそうです。そうすれば、幼い子どもが多く犠牲になったことがもっとはっきり伝わるということでした。これは、沖縄戦が兵士だけでなく、未来ある民間人の命をも無差別に奪った悲しい出来事だったことを示しています。

さらに衝撃を受けたのは、多くの住民が日本兵から「スパイではないか」と疑われ、家族や親族を殺されてしまったという事実です。生まれたばかりの赤ちゃんまで犠牲になったことは、戦争の残酷さと、人間が極限状態で心を失ってしまう恐ろしさを表しています。

その背景には、当時の日本政府による厳しい教育や情報の統制がありました。「捕まるくらいなら自決せよ」「住民も敵に通じるかもしれない」といった極端な考えが兵士に植え付けられ、悲劇につながったのだと思います。

また、公園には韓国政府が管理する慰霊碑もありました。これは沖縄戦が朝鮮半島出身者を含む多くのアジアの人々を巻き込んだ国際的な悲劇だったことを示しています。

平和の礎、多国籍の慰霊碑、そして民間人の悲しい犠牲が共存するこの公園は、戦争の教訓を伝え続け、世界に向けて平和の大切さを訴える重要な場所だと強く感じました。



写真：「平和の礎（いしじ）」

2. 【ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館】（糸満市）

沖縄戦のとき、多くの女学生が「ひめゆり学徒隊」として戦場に出されました。本来なら学校で勉強しているはずでしたが、負傷した兵士の看護をするよう命じられました。

戦場は薬も食べ物も足りず、とても厳しい環境でした。やがて日本軍から突然「解散命令」が出され、生徒たちは行く場所もなく戦場に残されてしまいました。さらに「米兵に捕まるとひどいことをされる」と教え込まれていたため、恐怖の中で逃げ場を失い、多くの生徒が命を落としました。

資料館には当時の制服や日記、手紙などが展示されていて、彼女たちがどれほど不安で死に生きようとしたかが伝わってきました。

特に印象的だったのは「ガマ（鍾乳洞）」での出来事です。米兵が「出てきなさい」と呼びかけても、「捕まるくらいなら死んだ方がいい」と思い込んで誰も出ず、ガス弾が投げ込まれて多くの人が亡くなりました。私の主観ですが、米兵にも「助けたい」という思いと「自分も危ない」という恐怖心があったのではないかと感じました。

ひめゆりの塔と資料館は、その悲劇を忘れず、平和の大切さを次の世代に伝える場所だと感じました。



ひめゆりの塔と伊原第三外科壕：ガマ（鍾乳洞）
ひめゆり学徒を含む陸軍病院の看護婦や兵隊、住民などおよそ100名が隠れていました。
米軍の攻撃を受け、80名あまりが亡くなりました。

写真：「ひめゆり学徒隊」を追悼する慰霊碑とガマ（手前）

【視察2日目】2025年11月7日

3. 【嘉数高台公園・嘉数高地戦跡】（宜野湾市）

嘉数高台公園は、沖縄戦でとても激しい戦いがあった場所です。今は高台から普天間基地を見渡すことができ、戦争の跡と現在の基地問題がつながっていることを感じました。私が訪れた日には、普天間基地にたくさんのオスプレイが並んでいました。

戦後80年という節目でもあり、他県から正装で慰霊碑に参拝に来ている団体の姿も見られました。黒いスーツや制服に身を包んだ人々が静かに祈りを捧げる姿は、戦争の記憶を大切にしようとする強い思いを表しているようで、とても心に残りました。

園内には、沖縄戦当時に使われたトーチカ（コンクリート製の防御陣地）が残されています。トーチカは、兵士が中に入って敵を狙撃するための施設で、分厚いコンクリートで造られています。内部は暗くて狭く、兵士たちがどれほど厳しい状況で戦っていたかを想像させられます。今も残るその姿は、戦争の悲惨さを直接伝える証拠です。

嘉数高台公園は、戦争の記憶を学ぶ場所であると同時に、現在の基地問題を考えるきっかけにもなります。過去と現在が重なり合うこの場所で、平和の大切さを改めて心に刻むことができました。



弾痕の塀（だんごんのへい）は、近隣から移設されたものです。
ここは日米両軍の激しい戦闘の舞台となり、住民や家屋も大きな被害を受けました。
今も残る弾痕の跡が、その激しさを物語っています。

写真：弾痕の塀（嘉数高台公園内）

4. 【辺野古「新基地反対阻止・命を守る会の戦い、テント村】（名護市）

辺野古では、新しい基地の建設に反対する人たちが「命を守る会」としてテント村を作り、活動を続けています。ここでは、戦後も続く沖縄の苦しみと抵抗の歴史を直接学ぶことができました。

活動の中で語られていたのは、自然が壊されている現状です。海辺ではヤドカリが大きく減ってしまい、環境への影響が深刻であることを知りました。

また、語り部の方が涙ながらに「うるま女性殺害事件」について話してくださいました。被害者の家族は、なかなか子どもに恵まれず、やっと授かった大切な子どもでした。その子が20歳を迎えた時に事件が起きてしまったことを知り、命の重さと悲しみを強く感じました。

さらに、きれいな海を前に沖縄民謡を歌ってくださり、その歌に基地反対の思いが込められていることを知りました。歌声は平和を願う気持ちを強く伝えていて、とても印象的でした。

辺野古のテント村は、平和と命を守るために声を上げ続ける大切な場所だと思いました。



イメージ：「新基地反対阻止・命を守る会の戦い、テント村」

5. 【うるま女性殺害事件の現場】（恩納村）

うるま市の町から少し離れた国道沿いの山の中に、この事件の現場があります。米軍関係者による事件が起きた現場です。辺野古の語り部の方から「ぜひ見に行ってください」と言われ、立ち寄りしました。

現場に立つと、言葉では表せないような重い気持ちになりました。戦後80年を迎えた今も、沖縄では人権問題や基地問題が続いていることを強く感じました。

本来はレポートに書くべきか迷いましたが、語り部の方が「二度と繰り返してはいけない事件を栃木の皆さんに広めてください」とおっしゃっていたので、本レポートに記載しました。

6. 【嘉手納飛行場・資料館】（嘉手納町）

嘉手納飛行場は、市の面積の約70パーセントを占めるほど大きな基地です。市街地のすぐ上を軍用機が爆音とともに飛び回る様子を見て、住民の生活に大きな影響を与えていることを実感しま



した。

東アジア最大規模の基地が日本にあるという事実に大きな驚きを覚えました。そして、この基地が戦争の拠点として使われる可能性があるという現実にも強い衝撃を受けました。

資料館では、基地の歴史や沖縄戦後の歩みが展示されていました。説明が漫画で描かれているため、子どもでも理解しやすく、学びやすい工夫がされていました。



写真：資料館（道の駅かでな内）

【視察3日目】2025年11月8日

7.【首里城・玉陵・第32軍司令部壕】（那覇市）

首里城は昔の琉球王国の中心で、王様が住んでいたお城です。戦争で焼けてしまいましたが、復元が進められています。しかし2019年の火災で再び焼失し、現在も復元作業が続けられています。

玉陵（たまうどうん）は王様や家族のお墓で、石でできた立派な建物から王国の歴史を感じられました。

そして一番驚いたのは、首里城の地下に沖縄戦の軍の司令部があったことです。ここでは日本軍が戦いの作戦を考えていて、炊事場や浴室もあり、多くの兵士が生活していました。沖縄戦の悲しさを伝える大事な場所です。

ガイドの横田さんから、第32軍司令部壕にある案内板についてのお話を聞きました。最初に作られた案内板には、いくつか間違いがあったそうです。横田さんが指摘したときには「修正できない」と言われましたが、その後、英語の説明文の間違いは修正されたと聞きました。

横田さんは「正しい歴史を伝えるために、間違いのない案内板にしたい」と話していました。いつかはすべての間違いを直して、正しい情報を残していきたいという思いを知り、とても心に残りました。

8.【対馬丸平和祈念館】（那覇市）

対馬丸平和祈念館を訪れて、戦争が子どもや民間人にどれほど大きな犠牲をもたらしたかを改めて感じました。多くの人が命を失



写真：第32軍司令部壕（首里城内）

い、生き残った人たちも心に深い傷を抱えていたことを知りました。

特に印象的だったのは、生存者に政府から「かん口令」（口止め命令）が出されていたことです。つまり、「本当のことは言ってはいけない」と強く命じられ、幼い子どもにまで監視が及んでいたのです。そのため、生き残った人たちは体験を語るができず、真実を隠したまま長い間苦しみ続けました。

さらに、疎開船に乗ることを希望しない人が多かったため、「船は軍艦だから安心だ」という誤情報が広められていたことも知りました。実際には軍艦ではなく、老朽化した貨物船（対馬丸）だったことに驚きました。この出来事から、戦争がいかに情報操作や誤解によって民間人を犠牲にしたかを学びました。



写真：対馬丸平和祈念館

9.【移動中のバス車内での話】

バスの車内で横田さんから聞いた話の中で特に印象的だったのは、基地を囲むフェンスの話でした。鉄線が基地の外側（日本側）に向けて設置されているため、米軍基地から日本側へは出やすいのに、日本側から基地へは入りにくい仕組みになっているそうです。実際にバスの車内から基地を見ましたが、どのフェンスも外側（日本側）に鉄線が向けられていました。

私なりに調べてみると、このフェンスのあり方には「日米地位協定」という日本とアメリカの間に結んだ協定が関係しているようでした。日本人は原則として米軍基地に立ち入ることはできません。一方で、米軍の人やその家族は、この協定によって日本に来るときに通常の入国審査を免除されるため、日本への出入りが容易になっています。さらに、緊急時には米軍基地から日本側へ逃げることはできても、日本側から基地へ緊急避難することはできない仕組みになっています。

基地のフェンスや出入りのルールは、ただの境界線ではなく、国と国との関係を表しているのだと思いました。こうした仕組みを知ることで、日米関係についてもっと考えるきっかけになりました。



栃木県生協連では平和活動の一環として2016年より毎年沖縄訪問研修を行い、現地の方々と沖縄南部の戦跡や米軍基地を訪ねています。よつ葉生協も毎年参加し、今回よつ葉だよりで2回にわたりご報告しました。ご感想をぜひお聞かせください。



第7回 定例理事会報告 1月14日(水)

《報告・協議事項》

(1) 生協役員賠償責任保険について

当生協の理事・監事が職務執行に関連して第三者から損害賠償請求等を受けた場合に備え個人責任リスクを軽減し、安心して職務を遂行できる環境を整備するため、日本生活協同組合連合会が提供する「役員賠償責任保険(D&O保険)」への加入について提案され、承認されました。

(2) 就業規則の改正について

職員のワーク・ライフ・バランスの確保と人材確保・定着を目的として、就業規則を改訂し、年次有給休暇とは別に年間5日の公休日を付与する制度を次年度から導入することが提案され、承認されました。

(3) 寄附金等取扱規程について

当生協における寄附金の取扱いについて、判断基準および手続きを明確化し、透明性・公平性を確保するため、「寄附等取扱規程」を新たに制定することが提案され、承認されました。

●12月度事業実績

組合員数	27,468名 12月20日現在(前年比101.0%)
	加入124名 脱会84名
供給高	427,723千円(前年比97.4%)
	2025年4月～累計3,494,482千円(前年比100.8%)

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(1月4週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています(単位:円)

放射能から子どもを守る募金(900番)	3,200
震災孤児を支援する募金(910番)	11,400
「有機農業と国産種子」募金(920番)	14,000
合計	28,600

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

募集～東日本大震災から15年 あの日あの時。今思うこと・・・

東日本大震災から15年。あの日はどのような一日でしたか？今思うことはどんなことでしょうか？皆さんの経験談や思いを募集し、よつ葉だよりでご紹介します。

○文字数、用紙は自由です。

○お名前・組合員番号

○掲載時のお名前 【そのまま掲載可】または【イニシャル希望】を明記ください。手書きの場合は「よつ葉だより宛」として配送員にお渡しください。

メール yotsubadayori@yotsuba-coop.jp

◆2月27日(金)までお受けします◆



●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

よつ葉太陽光発電報告

○11月24日から12月23日(30日間)の太陽光発電量は、8,949kWhでした。CO2削減量は2,814kg(18Lの灯油缶を119本燃焼した量)です。